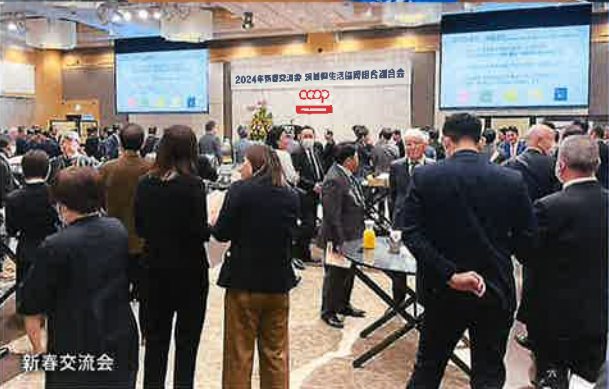


Kenren Charaki

coop 茨城県生活協同組合連合会 広報誌

けんれんいばらき



2024
4月

組合員活動交流会

協同組合原則学習

特集

1

国連が定めた2025年の「国際協同組合年(IYC)」に向けて、茨城県生協連と協同組合ネットいばらきは2024年3月12日、茨城教育会館にて「組合員活動交流会・協同組合原則学習」を開催しました。

10団体から理事や職員ら64名が参加し、学習講演とグループ分散会を通して学びを深め、所属を越えた活発な意見交流を行いました。



【 連携を呼びかける良い機会に 】

2012年に続いて2回目の国際協同組合年となる来年への足掛かりとして、改めて協同組合の役割や責任について学び、組合員同士のつながりを深めようと初めて企画。開催に向けては各会員生協から征矢優香子理事長(生活クラブ生活協同組合 茨城)、川浪肇子理事(パルシステム茨城 栃木)、八百川典子理事(いばらきコープ)、沢辺宏美理事(医療福祉生協いばらき)の4名を実行委員に、実行委員会形式を取り準備を進めてきました。タイムリーなテーマでの講演、他団体との交流の機会とあって、予想以上の参加があり盛会となりました。

開会あいさつで、茨城県生協連の鶴長義二会長は、コロナ禍での組合活動の苦勞を労った上で「生協は人と人とのつながりを大切にする組織。自分の団体だけでは分からないことはたくさんあるが、ほかを知ることでいろんな問題の共通の悩みが見えてきます。お互い顔見知りになり、そこから新たなものが生まれることを願っています」と呼びかけました。

「協同組合原則と協同組合間協同の実践事例」と題した学習講演では、日本協同組合連携機構(JCA) CI・国際・

研究チーム部長の前田健喜様が「協同組合のアイデンティティと2025年IYCについて」、同機構協同組合連携1部連携推進マネージャーの片岡昇様が「協同組合間連携の実践事例」についてお話しされました。

最初に、前田様は協同組合の活動指針を示す「協同組合原則」と「アイデンティティ声明」について、その変遷や内容を分かりやすく解説され、1995年の声明採択から時が経ち、社会が大きく変わってきた今、協同組合がどのような役割を果たせるか検証する必要があると、世界的にアイデンティティについて議論されている状況を説明。原則や声明を改めて学ぶことで協同組合の活動の本質や共通点が分かってくると、学びの意義を語られました。

さらに、IYC2025に向けた日本の取り組みにも触れ、前回のIYC2012では茨城県の中で実行委員会を立ち上げ、そこから協同組合ネットいばらきの設立につながったことを紹介。「IYC2025は連携を呼びかける良い機会になるはず。IYC実行委員会の結成と取り組みが、その後の連携の活性化につながっていくので、IYC2025を飛躍のきっかけにしていきたいと思います」と呼びかけられました。



【“あるもの”を持ち寄って問題解決へ】

続いて、連携の実践事例では片岡様が登壇。事業を異にする協同組合が集い、新しいものが生まれている全国の活動を紹介され、「協同組合間連携については、融合して一つになろうということではなく、お互いの事業を知り合いながら一致できる部分だけ一致していこうということ。一致できるものを見出しながら、地域貢献、地域振興に協同して取り組むことで、抱えている地域の問題の解決につながっていきます」とお話しされました。

また、JA茨城県中央会 常務理事の坂本健一様からは、日本の食や農業についてご講和を頂きました。JAグループが発行する雑誌「家の光」から、食に関する記事「どうする、食料安全保障！ 明日の食べ物だいじょうぶなの？」を取り上げ、世界的に問題となっている食糧危機や国会で見直し話が話し合われている「食料・農業・農村基本法」などに触れた上で、「これからは専業農家だけでなく、オールジャパンで日本の農業を支えていく必要があります。担い手だけで農業、農村を支えることは限界にきています。国民的な議論として、子どもや孫へ責任を持って考えていかないといけない」と問題提起されました。

午後からの分散会交流は、5グループに分かれての自己紹介に始まり、学習講演についての意見交流、組合員活動の状況報告や悩みの共有を行い、時折笑い声も響

かせながら盛り上がりました。まとめのグループ発表では、担い手不足の問題や広報活動の難しさ、参加者確保といった課題のほか、「悩みはどれも同じということを再認識できた」「活動は違ってみんな同じ方向を向いている。良い話し合いが持て、お互いを知る機会となった」などの声が聞かれました。

【 IYC2025に向けて確かな手応え 】

盛況を収めた会を振り返り、実行委員の八百川理事は「2025年の国際協同組合年の前段階として、交流することで来年何か生まれるのではないかという思いでやってきました。みんなで何か心に残るものができれば」と発言。沢辺理事は「悩みは皆さん一緒に、外部にどうやって発信していくか、担い手をどうするかは共通課題」、川浪理事は「みんなで課題を共有できてよかった。これから力を合わせて発信していくことで大きな力になると思います」と手応えを語りました。征矢理事長は「新しいことではなく、すでに自分たちが持っているもので力を合わせてできることはあると思う。協同組合として何かできそうだ、ということを感じられる交流を持てたことをうれしく思います」と話しました。

今回の交流会から新たな連携による動きが生まれ、2025年への大きな布石となることが期待されます。



会員紹介

3

茨城県学校生活協同組合

教職員の仕事と暮らしを支える ライフパートナーを目指して

インタビュー

interview



吉田 豊

茨城県学校生活協同組合 代表理事 理事長



加藤 よし子

茨城県学校生活協同組合 事務局長

困難な時期を乗り越えて 安定した経営を継続

コロナ禍での学校訪問販売の低迷や交流事業の中止など、全国的に厳しい経営状況に直面している学校生協が多い中、16年連続で黒字経営を達成している「茨城県学校生活協同組合」(通称・学校生協)。数年ぶりに再開した組合員ふれあい事業をはじめ、被災地支援・子ども支援や定年後を見据えた「ライフプランセミナー」開催など、教職員のライフパートナーとして、幅広い活動を展開しています。吉田理事長と加藤事務局長に、学校生協の60年以上にわたる歴史や取り組み、展望についてうかがいました。

学校生協は、茨城県内の幼稚園から高等学校、特別支援学校、教育委員会及び教育団体職員を対象とする職域生協です。組合員数は16,186名、2023年度の新規加入者数は395名で、退職継続組合員は4,198名となっています(1月末現在)。教職員のくらしの安定と向上を目指して設立された「茨城県教職員購買利用組合」を母体として、1957年に設立されました。当時の組合員数は8,070名、出資金80万円で、代行店やカタログ、チラシによる物資の供給が主な業務でした。

時は昭和30年代初頭、高度経済成長により国民生活が様変わりしていく一方で、教職員の暮らし向きはまだまだ厳しく、背広も満足には買えなかったといいます。「教員の給料は安く、教え子の方が給料がいいなんてこともあったそう。今のように大手紳士服メーカーやローンもなかった時代。学校生協では分割購入ができたので、



当時の教員にとって生活の助けとなり、衣料品の利用が多かったようです」

その後1990年代頃になり、新たなサービスとして一時は生鮮食品の供給に乗り出し、土地購入や設備投資を行いました。これが大失敗。2002年度まで累積赤字は、2億円に上り、経営が急激に傾き破綻寸前の状況に。そこから費用対効果を考え、徹底した業務見直しなどで経営改革を行った結果、2007年度に黒字体制に転換。以降、黒字を続けています。経営悪化の頃から保険の集金業務を開始し、徐々に保険代理店手数料の確保や各種カードの発行増、ハウジング事業の拡大といった手数料の増収策にも取り組み、事業収入の柱を大きくしています。

特徴的な供給事業を 社会貢献活動へ繋げる

安定した経営を続けてきた学校生協ですが、ここ数年のコロナ禍では、指定店業者が学校に入れなくなったことが学校回り業務に影響し、宝飾品や整水器、寝具などの斡旋供給は大きな打撃を受けました。そんな厳しい状況下でも「組合員の仕事や生活をサポートするためのライフパートナーを目指す」という役割を果たすべく、特徴的なキャンペーンの展開やHPの“マイページ”登録推進を行うなど、組織拡大と利用促進を図ってきました。

特に、教育に携わる学校生協として大切にしているのが、被災地支援や子ども支援、学校教育環境充実のための支援活動です。昨年度6月10月2月には東日本大震災・豪雨災害の復興支援企画として、関東・東北など9県共同企画による被災地支援に取り組みました。また、茨城県生協連や協同組合ネットいばらき、フードバンク茨城とともに参加した「子ども支援・学生支援プロジェクト」には10万円を寄付。さらに世界の子ども支援のために、日本ユニセフ協会に10万円の寄付を行いました。能登半島地震支援では、石川県学校生協へ見舞金10万円を送り、今後も「一品以上利用拡大キャンペーン」などの収益の一部を支援金として送っていく考えです。



フードバンク茨城、協同組合ネットいばらき、茨城県連とともにボランティア活動として



日本生協連子どもプロジェクト募金により福島の子どもたちへのボランティア活動の資金に

被災地支援・ボランティア植樹活動▶



組合員ふれあい事業地曳き網&バーベキュー
大洗サンビーチで行いました。



組合員親子「南極クラス」



JAL整備工場見学



南極の水に興味津々。

2023年度は、活動を休止していた組合員ふれあい事業も再開し、昨年10月に大洗海岸で「地曳き網&バーベキュー」を開催。組合員の親子など107名が参加して、久しぶりの交流を楽しみました。茨城ならではの地曳き網や人気の羽田JAL整備工場見学ツアーは、他県に先駆けて茨城で始めた企画で、今ではほかの学校生協にも広まったそう。加藤事務局長は「今後は、これまで行ってきた南極クラスやJAL整備工場見学ツアーなどの様々な活動を再開していきたい」と話しました。

一方で、いわゆる「2025年問題」への対応も迫られているといい、輸送費や郵便料金など物件費の抑制対策も急務です。吉田理事長は「ペーパーレス化や迅速な情報発信ができる“マイページ”登録者増を進めているところです。また、被災地支援・子ども支援キャンペーンなどの明確な供給活動は購買意欲が上がり、その収益を支援に回すこともできるので皆さんに喜んでいただいています。特徴的な取り組みを積極的に行い、黒字経営を続けていくことが一番の目標。そして収益をできるだけ子ども支援や被災地支援などの社会貢献活動に回したい」と力強く語りました。



県生協連の主な活動



11/11
いばらきままりあい「つどい」開催
小美玉市四季文化館



11/27-12/1
茨城大学生協と連携し「学生応援
100円カレー」の取り組み



12/13.14
冬の子ども応援プロジェクト404世帯
へ支援



12/16
ユニセフハンドインハンド募金
へ支援



11/15
茨城県生活文化課との定期懇談会
実施



11/27-12/1
茨城大学生協と連携し「学生応援
100円カレー」の取り組み



12/14
協同組合ネットいばらき設立10周年
記念大会開催



1/9
2024年 新春交流会開催



11/18
ヒタチエ1階つながる市
健康チャレンジ 健康相談会を実施



機関会議報告



第5回理事会

開催日時: 2024年1月9日(水) 12時30分~12時50分

開催場所: ホテル・ザ・ウェストヒルズ・水戸

出席: 理事13名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名

議事の経過と結果:

最初に理事鶴長義二は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。

【議決事項】

- (1).2024年度 役員定数(理事・監事)の件について
井坂専務より提案し承認された。
- (2).役員推薦委員の選出の件について
井坂専務より提案し承認された。
- (3).第52回通常総会の開催の件について
井坂専務より提案し承認された。

(4).2024年度県生協連会費の件について

井坂専務より提案し承認された。

(5).令和6年能登半島地震に対する見舞金支出の件について

井坂専務より提案し承認された。

※理事会終了後、新春交流会を開催

第6回理事会

開催日時: 2024年3月21日(木) 13時30分~15時00分

開催場所: 茨城県JA本館4階 第一会議

出席: 理事10名、監事2名、オブザーバー1名、事務局1名

議事の経過と結果:

最初に理事鶴長義二は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。

【議決事項】

- (1).2023年度活動のまとめ(案)及び2024年度活動方針(案)の件について井坂専務より提案し承認された。
- (2).2024年度県生協連事業経費(案)の件について
井坂専務より提案し承認された。



県生協連からのお知らせ

01

2024ピースアクションinいばらき春～戦争の足跡 見て考えよう～

予科練平和記念館・雄翔館 見学(主催 茨城県生活協同組合連合会)

- 日時 2024年4月13日(土) 10:00～12:00(受付9:45～)
- 集合場所 予科練平和記念館 住所/茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸5-1
- 対象 どなたでもご参加いただけます。お子様歓迎
- 申込み 3月22日(金)までにURLまたはQRコードからお申込みください。

■申込みURL <https://ws.formzu.net/fgen/S338030875/>

■↓QR(二次元バーコード)



予科練平和記念館



■ 茨城の戦争遺跡 [視聴無料]

戦争遺跡を通じて、戦争の記憶を継承していくため、茨城大学 学生とDVD「茨城の戦争遺跡～身近に残る戦争の記憶～」を共同制作しました。右記QRコードから視聴することができます。



02

茨城県消費者フォーラム開催のご案内

(主催 茨城県消費者団体連絡会 共催 茨城県、茨城県生活協同組合連合会)

テーマ: 「デジタル時代に求められる消費者力とは、
消費者を取り巻く環境の報告と講演会

講演会: 「サイバー犯罪の現状と被害防止対策(予定)」

- 日時 2024年 5月20日(月) 13:30～15:30予定(受付13:00～)
- 会場 茨城県市町村会館 住所/水戸市笠原町978-26
- 対象 どなたでもご参加いただけます。 ○人数 100名まで
- 参加費 無料
- 申込み 電話でお申込みください。

茨城県生活協同組合連合会 TEL.029-226-8487 受付/月曜～金曜日(祝日除く) 10:00～16:00



令和5年度 茨城県消費者フォーラムの様子

03

福島第一原発廃炉作業 および とみおかアーカイブミュージアム見学会

(主催 茨城県生活協同組合連合会)

震災・事故から13年経った福島を知り、エネルギー政策をどう考えるのか、
原子力施設を有する茨城県に住む私たちにとっては大切なことです。

- 日時 2024年 5月24日(金) 8:30～18:10予定
- 見学施設 富岡町震災伝承施設「とみおかアーカイブミュージアム」と福島第一原子力発電所
- 対象 どなたでもご参加いただけます。 ○人数 先着30名まで
- 参加費 1人4,000円(バス・昼食・入館料含む)
- 申込み 5月7日(火)までに電話、またはWEBにてお申込みください。

茨城県生活協同組合連合会 TEL.029-226-8487

受付/月曜～金曜日(祝日除く) 10:00～16:00

■申込みURL <https://ws.formzu.net/fgen/S545575965/>



福島第一原発構内にある処理水を貯蔵したタンク

■QR→

(二次元バーコード)



県生協連の活動予定

茨城県生協連

3月～6月の
主な行事予定



2024年 3月	22日(金)	協同組合ネットいばらき幹事会
	27日(水)	日本生活協同組合連合会 / 中央地連総会議案検討会議
	28日(木)	茨城県共同募金会評議員会
	29日(金)	茨城県ユニセフ協会理事会
4月	1日(月)	第11回組合員活動責任者会議 / 第1回ピースアクション実行委員会
	13日(土)	2024ピースアクションin春
	17日(水)	第5回会長・副会長会
	27日(土)	おたがいさま水戸役員会
5月	7日(月)	第1回組合員活動責任者会議 / 第2回ピースアクション実行委員会
	15日(水)	第7回理事会
	20日(月)	茨城県消費者フォーラム
	3日(月)	第2回組合員活動責任者会議 / 第3回ピースアクション実行委員会
6月	14日(金)	日本生活協同組合連合会通常総会
	20日(木)	茨城県生活協同組合連合会通常総会 第1回理事会



毎年5月は「消費者月間」です!

令和6年度の消費者月間のテーマは、「デジタル時代に求められる消費者力とは」です。デジタル化やAI等の技術が急速に進展し、生活の利便性が増す中で消費者トラブルも多様化しています。安全・安心かつ豊かな消費生活を送るため、日々の情報収集を続けましょう!



消費者トラブルの相談事例

インターネット通販での定期購入

SNS広告を見て、初回980円のダイエットサプリを注文したが、3カ月ごとに届く「定期購入」だった。



アドバイス

インターネット通販では、注文する前に販売サイトや「最終確認画面」の表示をよく確認しましょう!

いばらきくらしのセミナー(出前講座)をご利用ください

茨城県消費生活センターでは、消費者教育の講師を無料で派遣しています。学校の授業や企業の研修、団体の勉強会などに是非ご利用ください。講座のお申込みは「いばらき電子申請・届出サービス」よりお申込みください。

【テーマの例】
・暮らしと契約の基礎知識
・悪質商法と対処法
・インターネットトラブル など



消費者
トラブルの
ご相談は

消費者ホットライン **188** (いやや)へ!

お近くの消費生活相談窓口、または国民生活センターをご案内します。

茨城県消費生活センター ホームページは

いばらき消費生活なび

検索



発行 茨城県生活協同組合連合会

〒310-0022 水戸市梅香1丁目5番5号 茨城県JA会館分館5階 TEL.029-226-8487 FAX.029-224-1842

URL: <http://www.ibaraki-kenren.coop/index.html> E-mail: ibkenren@ibaraki-kenren.coop